

短 報

富山県内のカキノキに残る
2016年秋のツノワグマの痕跡*

南部 久男¹⁾, 白石 俊明²⁾, 後藤 優介³⁾

¹⁾ 富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

²⁾ 富山県立山カルデラ砂防博物館
930-1405 中新川郡立山町芦峠寺字ブナ坂68

³⁾ ミュージアムパーク茨城県自然博物館
306-0622 茨城県坂東市大崎700

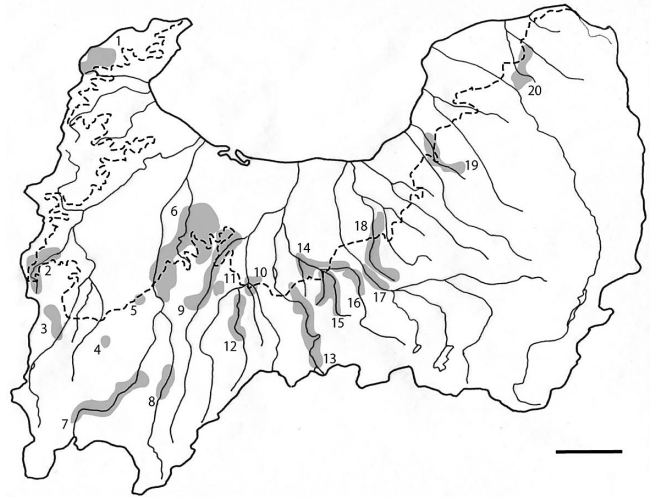


図1 富山県内の各調査地域(網掛け部分).

番号は表1に対応する. 図の点線は標高100mライン. バーは10km.

Traces marked by Japanese black bear on
the Persimmon trees in Toyama Prefecture,
central Japan, in autumn 2016

Hisao Nambu¹⁾, Toshiaki Shiraisi²⁾
and Yusuke Goto³⁾

¹⁾ Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi,
Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

²⁾ Tateyama Caldera Sabo Museum, 68, Bunazaka,
Ashikuraji, Tateyama-machi, Toyama 930-1405, Japan

³⁾ Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando-shi, Ibaraki
306-0622, Japan

はじめに

富山県の低山の河川流域や山麓部の人里周辺でのツキノワグマの出没状況を知るための基礎資料として, 筆者らは2010年から2015年秋にカキノキにつけられたクマの痕跡(爪痕)を調査し報告してきた(後藤・南部, 2012, 2015; 南部ら, 2016, 2017). 本稿では2016年秋のカキノキにつけられた痕跡(爪痕)の確認状況について報告する.

調査地および方法

調査地域は, 後藤・南部(2012)の定点調査地域である県内の河川流域などの20地域である(図1, 表1). 原則として2010年秋に調査したカキノキについて爪痕を確認したが, 調査本数には増減がある. 現地調査は2017年1月から同年7月に行った. なお, 栃津川, 角川については, すでに報告した(白石ら, 2017a).

結果及び考察

20調査地域で2016年秋のツキノワグマの爪痕があったカキノキの割合を表1に記す. 20地域のうち14地域でクマの爪痕は確認できず, 6地域(庄川, 山田川, 神通川本流上流, 常願寺川, 栃津川, 角川, 舟川山麓部)でクマの爪痕を確認した. その割合は庄川, 神通川本流上流では5%以下で, 常願寺川, 舟川山麓部では10%以下であったが, 山田川では16.9%とやや多く, 栃津川, 角川では, いずれも40%を超した.

富山県自然保護課(2017)の「平成28年富山県ツキノワグマ出沒注意情報(第1報)」(平成28年9月5日付け)の堅果類の豊凶調査によれば, ブナ, ミズナラ, コナラ作柄は, ツキノワグマの大量出沒年(平成18年と平成22年)と比較すると県東部では同等以下の状況, 県西部では良い状況で, ブナ(県東部 凶作, 県西部 不作), ミズナラ(県東部 凶作, 県西部 不作), コナラ(全県 不作)と発表されている(神通川を境に東側は県東部, 西側は県西部). 実際に県東部の平地での出沒が相次ぎ, 人身被害も起きている(富山県自然保護課, 2018; 白石ら, 2017b). 一方, 県西部の出沒は少なく, クマの爪痕もほとんど見られなかった. クマの大量出沒時にはカキノキに残るクマの爪痕の割合は, 高くなることが知られている(後藤・南部, 2012, 2015, 2018; 南部・白石, 2012). 今回, 県東部の定点調査河川, 角川, 栃津川ではそれぞれ40%を超し, 角川と栃津川の間位置する上市川水系の郷川でも69%とクマの爪痕のあるカキノキの割合が高かったことが報告されている(白石ら, 2017a). また, 2016年秋は神通川本流の中流右岸の段丘崖や熊野川左岸の平

* 富山市科学博物館研究業績第532号

地（図1のNo14下流周辺）でも初めてクマが出没し（南部，2017；白石・南部，2018），この場所の2016年秋のカキノキに残るクマの爪痕の割合は10.3%で，これは少数のクマの出没によるものと推測されている（白石・南部，2018）。

2016年秋は，県東部でのクマの出没が多く，西部では出没は多くなかったが，カキノキに残る爪痕の調査結果もこの出没状況に対応した結果となり，県東部では，クマの大量出没に似た状況の地域があったと考えられる。

表1 2016年秋のツキノワグマの爪痕が残るカキノキの割合

調査地	調査本数	爪痕の有無 2016秋	割合
1 余川川	32	0	0%
2 渋江川	10	0	0%
小矢部川流域（計）	99	0	0%
3 福光地域	76	0	0%
4 城端地域	23	0	0%
庄川流域（計）	194	1	0.5%
5 井波地域	14	0	0%
6 庄川	146	1	0.7%
7 五箇山地域	21	0	0%
8 利賀川	13	0	0%
神通川流域（計）	173	12	6.9%
9 山田川	59	10	16.9%
10 井田川	45	0	0%
11 室牧川	5	0	0%
12 野積川	8	0	0%
13 神通川本流上流域	56	2	3.6%
熊野川流域（計）	198	0	0%
14 熊野川	117	0	0%
15 黒川流域	42	0	0%
16 熊野川上流域	39	0	0%
17 常願寺川	13	1	7.7%
18 栃津川	38	17	44.7%
19 角川	62	27	43.5%
20 舟川山麓部	39	3	7.7%
計	858	61	7.1%

文献

後藤優介・南部久男，2012. 富山県におけるツキノワグマによる2010年秋のカキノキ利用状況について. 富山の生物，(51):93-100.

後藤優介・南部久男，2015. 富山県におけるツキノワグマによる2012～2013年秋のカキノキ利用状況. 富山市科学博物館研究報告，(39):95-96.

後藤優介・南部久男. 2018. 富山県の小河川流域の生物—富山県生物学会の総合調査（2006～2014）の報告（概要）—. pp. 124-127+134-135. 富山県内の8河川流域のツキノワグマの採食痕跡と4 河川流域の哺乳類. 富山県生物学会. http://www.geocities.jp/toyamaken_seibutugakkai/. 2018年4月18日. 閲覧.

南部久男. 2017. 富山市におけるツキノワグマの出没記録（2016年）. 富山市科学博物館研究報告，(41):113-120.

南部久男・白石俊明. 2012. 富山県におけるツキノワグマによる2006年秋のカキノキの痕跡. 富山市科学博物館研究報告，(36):9-12.

南部久男・白石俊明・後藤優介，2016. 富山県におけるツキノワグマによる2014年秋のカキノキ利用状況. 富山市科学博物館研究報告，(40):97-98.

南部久男・白石俊明・後藤優介，2017. 富山県内のカキノキに残る2015年秋のツキノワグマの痕跡. 富山市科学博物館研究報告，(41):71-73.

白石俊明・南部久男，2018. 富山市熊野川左岸側平地における2016年秋のツキノワグマの出没状況. 富山の生物，(57):131-134.

白石俊明・南部久男・後藤優介・澤田研太，2017a. 富山県東部3河川流域における2016年秋のカキノキに残るツキノワグマの痕跡. 富山の生物，(56):116-119.

白石俊明・澤田研太・南部久男・岡 圭一・福田 保・見浦沙耶子・間宮寿頼・永井知佳. 2017b. 富山県における哺乳類の記録（2016年）富山の生物，(56):120-128.

富山県自然保護課. 2016. 平成28年富山県ツキノワグマ出沒注意情報（第1報）. 平成28年9月5日.

富山県自然保護課，2018. 平成28年 ツキノワグマの目撃痕跡情報. 最終更新日：2018年2月7日. http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/kj00016151.html. 2018年4月13日. 閲覧.